

令和3年度 第52回関東中学校バドミントン大会

参加細則

1. 参加者は都県中学校体育連盟加盟校（参加資格の特例を除く）に在学し、各都県の競技要項により関東中学校大会の参加資格を得た者に限る。
2. 引率者、監督は参加校の教員または部活動指導員であること。また、マネージャーは参加校の教員または生徒であること。
3. 監督、マネージャーはこの大会が学校管理下の大会であることを認識し、大会の品位を保つために、服装を整えとともに、選手の健康管理と掌握に努め、大会運営に協力すること。
4. 大会会場に入ることができるのは、出場登録選手、監督、マネージャーとする。ただし、コーチについては、団体戦のある8月7日（土）、8日（日）の2日間のみ会場への入場を認める。（監督、マネージャー、選手（団体・個人を問わない）は3日間、会場に入場することは可能）
5. 監督会議は開催しない。周知すべき事項については資料等をホームページに掲載する。
6. 開会式、閉会式は開催しない。また、表彰式は開催せず、種目ごとに順位が決定しだい、随時表彰する。
7. 団体戦の選手変更については2名以内とし、監督、マネージャーの変更についても、「8月7日（土）11時30分まで」に書面（所定用紙）によって大会事務局に申し出ること。また、選手等の変更の際には所定用紙の注意事項を参照の上、所定の方法にて変更を行うこと。なお、団体戦の選手の追加については、一切認めない。ただし、男子団体戦2回戦から出場する中学校で大会1日目に来場しない場合には、所定の時間までに事務局に連絡を入れ、対応方法を確認すること。
8. 団体戦ではコーチング席1席とベンチを設置する。コーチング席は監督、マネージャー、コーチが入ることができる。ただし、成人とする。ベンチに入ることが認められるのは、登録した監督、マネージャー、コーチ、選手とする。コーチについては当該校の校長が認めた成人とし、日常の部活動に参加している者とする。（中学校の教員は不可）また、インターバルのアドバイスは1コートにつき1名とする。
9. 個人戦のコーチング席は1席とし、監督が入るものとする。
10. 選手集合所は設置しない。放送による試合のコール後、観客席より直接コートに移動する。
11. 試合前の練習時間については、挨拶後、団体戦は対戦ごとに対戦前に2分ずつ行う。個人戦のダブルスは同時に3分間とする。シングルスは、対戦相手と3分間行う。
12. 団体戦の際には、サービスやエンドを決めるためのトスを、それぞれの試合の前に行う。
13. 団体戦は、試合の進行状況により、最初から2コートないし3コート並行で行うことがある。なお、先取マッチ（試合）方式で行う。

14. すべてのゲーム中に、一方のサイドのスコアが11点になったとき、60秒を超えないインターバルを認める。
15. 第1ゲームと第2ゲームの間、第2ゲームと第3ゲームの間に120秒を超えないインターバルを認める。
16. シャトルがインプレーでないときに限り、プレイヤーはマッチ（試合）中アドバイスを受けることができる。
プレイヤーはインターバルを除き、マッチ（試合）中、主審の許可なしにコートを離れてはならない。
17. 競技中の汗拭き等は、ゲームを中断しないように心掛けること。また、水分補給については主審の許可を得て行い、スクイズボトル等を使用すること。
18. 防汗や整髪のために、ハチマキの使用は認めるが、体裁良く結ぶこと。インナーについては、露出する場合は、審査合格品とする。儀礼（表彰、試合入退場・あいさつ時）の際は、上衣の裾は下衣の中に入れること。
19. 上衣の背面中央に必ず中学校名及び姓を日本語（楷書）で明記（上段：学校名、下段：姓、）し、文字の色は上衣に鮮明に映えるものとする。チーム内に同姓がいる場合には名前の一文字目を小さく入れること。ゼッケンを使用する場合、白の布地で縦20cm、横30cmの大きさを基準とする。（ゼッケンの場合の文字の色は、黒色または濃紺色とする。）*文字の大きさについては、今年度は猶予期間とする。
20. 競技会場内では健康上の理由から冷房（エアコン設備）を使用する。
21. フラッシュを使用した写真撮影は厳禁とする。また、VTR撮影の場合には、館内コンセントを電源とする撮影は行わないこと。（ACアダプター等の電源器具が没収される場合がある。）
22. 練習会場は設置しない。ただし、千葉ポートアリーナ内のサブアリーナ（4面）を練習コートとして割り当てる。
23. 全参加校が学校に帰る事が難しくなりそうな場合（地震、台風等）は、中止またはタイムテーブル、スコアリングシステムを変更して実施することもある。
24. プログラム等に誤字・脱字がないように十分に留意するが、訂正があれば、受付時に配付する書面（所定用紙）にて、大会事務局へ申し出ること。申し出により、大会本部より速報等にて訂正を連絡する。
25. 審判（線審）については原則として以下の通りとする。
 - ・団体戦については、主審は本部からの審判員が行うが、線審は対戦チーム同士が各コート1名ずつ出し、線審の任務を行うものとする。人員が不足する場合には、本部から補充する。
 - ・個人戦については、主審は本部からの審判員が行うが、線審は敗者選手が行うものとする。ただし、シングルスの場合は本部から線審1名を補充する。試合終了後、コートサイドに残り線審を行ってから退場すること。

